神中しーぶん

平成26年
7月7日

神原中
不定期16号

High祭取組!!
―わくわく 7月18日―

去る6月30日(月)をもって、神原High祭の出場申込が終了しました。受付当初は反応が遅く、申込も少なく、開催が危ぶまれました。校内放送等での呼びかけの効果により13組の申込がありました。現在多くの生徒達が、来るオーディションへ向けて練習を重ねています。

３クラスが、学級単位で取り組んでいます。カセットデッキの音楽に合わせて、ダンスの練習にも熱が入ってきています。

見事オーディションを突破し、本番当日のパフォーマンスで、最高の輝きを見せる演技はどのチームになるか？今から楽しみです。

神原High祭は、7月18日(金)午後3時15分開始の予定です。昨年同様、多くの保護者の皆様が参観し、生徒たちを激励してくれることを期待しています。

←左
昨年の様子

CAPワークショップ!!
―「子どもへの暴力防止」１年全クラスにて実施―

去る七月四日(金)五・六校時、一年全学級においてCAP子どもワークショップを実施しました。CAPとは、分かりやすい言葉で人権概念を教え、子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力といった様々な暴力に対して何ができるのかを、子ども、親、教職員、地域の人々に伝えるプログラムです。

CAPの三つの柱は、

①エンパワメント

CAPプログラムは、大きく二つに分けて「子どものためのプログラム」と「親や教職員、地域の大人へのプログラム」があります。

これらのプログラムに共通する理念は「エンパワメント」(内なる力を引き出す)です。子どもへの暴力は、大人と子どもの圧倒的な力の差のもとに、「子どもは無力である」という偏見と抑圧を容認する社会状況の中で継続、放置されてきました。同様に、これまでの暴力防止対策は「子どもは無力である」から大人に守られなければならないと考え、「～してはいけません」式の子どもの行動規制が中心でした。

しかし、いくら子どもが心配でも、大人が一日中そばにいて守ることはできません。また、この方法では実際に暴力にあい、被害を受けそうになったときにどうしたらいいかわからないばかりか強く自分を責めてしまうことになるなど、むしろ子どもの無力感・不安感を助長します。CAPプログラムは、子どもは大人が守るべき弱い存在だ、とみるのではなく、不安で困難な状況にも、子ども自身の問題を解決する力を信じ、その力を引き出すエンパワメントの考えが基になっています。子どもは「無力で何もできない」のではなく、行動の選択肢とそれを使って自分を守ろうという力があれば、暴力から自分を守ることができます。子どもの内なる力に働きかけ、その力を引き出すのがエンパワメントです。

②人権意識

子どものプログラムでは、最初に大切な三つの権利「安心、自信、自由」について学びます。この三つの権利は生きるために絶対に必要なものと説明します。

子どもたちは誰でも安心して自信を持って自由に生きる権利があります。そして、暴力とはこの三つの権利を侵す行為です。子どもたちに「自分たちは大切な権利を持っている」という人権意識を積極的に教えていくことによって、子どもたちは自分自身が価値のある大切な存在であることを知り、自信と勇気を取り戻します。そして、プログラムを通して危険な状況を識別し、その危険な状況から逃げるための知識や技術を身につけ、大切な自分の身を守る力を得ることができるようになります。極めて具体的で実践的なスキル(技能)を提供していきます。

人権を守る基本的対処の仕方が「イヤという」「その場を離れる」「(誰かに話す」です。これを具体的にロールプレイ(寸劇)を使って学んでいきます。大切な自分を暴力から守るために人権意識が必要です。

③コミュニティ

CAPは、子どもたちの安全のためにはコミュニティ(地域)の大人たちが子どもたちをサポートすることが不可欠だと考え、そのための積極的な働きかけをします。学校に地域の大人がやって来て子どものプログラムを提供することによって、子どもたちは子どもの安全のために真剣に取り組んでいる大人たちがいること、子どもの話に耳を傾ける大人がいることを理解します。また、大人へのプログラムを親や教職員、地域の大人たちへ提供することで、エンパワメント、人権意識などの考えや、暴力に対する知識、情報、技術などを大人同士が共有し、互いに助け合う地域を作って、地域全体で子どもたちをサポートしていけるようにします。CAPはコミュニティの安全のための活動です。

このようにCAPプログラムは、暴力を許さない社会をつくるために、子どもおとなも自分と他者の人権の重さと大切さを知り、自信と勇気を引き出します。

あいさつ運動!!
―生活委員会の活動―

今学年度、生徒指導主事の平田先生の指導の下、生徒会の生活委員会が中心となって、学年ごとに朝のあいさつ運動を展開しています。

朝一番に出会う“みんな”がいて、その元気のあるさわやかなあいさつで迎えられたとしたら、前の日にあった嫌なことも忘れさせ，**“よし”今日も一日がんばるぞ、**という気持ちになることでしょう。そしてお互いの反応が良い方向へと影響し合って、迎えられた生徒だけでなく、迎えた生徒自身も心地よくなることでしょう。

やがて，その雰囲気が学校全体を変えていく力となっていきます。そこに、あいさつ運動の原点があるのだと思いますが、皆さんはどう感じますか。**パワーアップ神原中！**